

Title	国語学力調査における読解のつまずき分析と考察：昭和二十年代を中心に
Author(s)	本橋，幸康
Citation	国語論集，9：266-275
Issue Date	2012-03
URL	<a href="http://s-ir.sap.hokkyodai.ac.jp/dspace/handle/123456789/7405">http://s-ir.sap.hokkyodai.ac.jp/dspace/handle/123456789/7405</a>
Rights	

## 国語学力調査における読解のつまずき分析と考察

— 昭和二十年代を中心に

北海道教育大学釧路校准教授

本橋 幸康

### はじめに

戦後初期の国語学力調査の多くは、経験主義の新教育に対する学力低下批判のよりどころとして、児童・生徒の学力が低下したか、否かという学力の実態把握を目的として行われてきた※1。その中で、冲山光『科学的根拠に立つ国語教育の改善』国語の学力調査とその実態』（昭和二十六年）では、読解力の調査のねらいを次のように設定している。

第1節 子供たちは、どんな文を、どの程度に読みとることができるか。

第2節 子供たちは読解するにあたって、どんな文のどのような箇所が難しいか。

第3節 その読解困難の原因はどこにあるか。

既に拙稿※1にて考察しているが、学力の実態把握だけでは

なく、誤答分析を詳細に行いながら、いかに授業を改善していくかという学習指導に重点をおいた学力調査であった。

同様に、昭和二十年代に行われたものとして、文部省『読解のつまずきとその指導（1）』※2（調査自体は昭和二十七年）も、児童の学力の実態を把握するとともに、読解のつまずきを分析・類型化し、どのように指導を行うことが有効であるか検討を行っているものである。

小稿では、文部省『読解のつまずきとその指導（1）』における読解のつまずきの分析の観点を考察し、誤答分析を生かした学習指導を検討したい。

### 一 昭和二十年代における学力調査史

昭和二十年代における国語学力調査に関するものを次に示す。（資料の発行年順）

昭和二十六年

『日本人の読み書き能力』読み書き能力調査委員会編 東京  
大学出版部

『科学的根拠に立つ国語教育の改善 国語の学力調査とその実  
態』沖山光 教育図書

昭和二十九年

『中学校生徒の基礎学力』日本教育学会学力調査委員会 東  
京大学出版

『入門期の言語能力』国立国語研究所報告7 秀英出版

『低学年の読み書き能力』国立国語研究所報告10 秀英出版

昭和二十九・三十年

『全国小・中学児童生徒学力水準調査』第一(二次中間報告)  
国立教育研究所学力水準調査委員会

昭和三十年

『国語の学力調査』日本教職員組合学力調査委員会 大日本  
図書

これら多くの学力調査は、学力が低下しているかどうかの実  
態把握を目的とした学力調査であるが、『全国小・中学児童生  
徒学力水準調査』は、学習指導要領の改訂にともなう教育課  
程作成のための基礎資料としての目的も持ち合わせている。※  
また、学力の観点を確認すると※3、昭和二十年代初期は、  
経験主義の戦後新教育のもと学習指導要領においても「話し合

い」が強調されていたにもかかわらず、学力調査の多くは、読み  
書きに重点が置かれていることが分かる。

二 『読解のつまずきとその指導(一)』における読解力調査

小稿で扱う文部省『読解のつまずきとその指導(一)』に掲載  
してある昭和二十七年二月下旬から三月上旬にかけて、その学  
年の修了時の学力において実施されたものを小稿ではとりあげ  
る。東北・関東・近畿・中国・四国の五地区十校の第一学年から  
第六学年まで合計二千六百六十人の児童を対象として、読解  
を対象として、次のように構成されている。

- 1 文中の漢字の読み
  - 2 文中の語句の理解
  - 3 内容として
    - a 書かれている事からの理解
    - b 前後関係から読みとっていく、事がらの理解
    - c 前後関係から、多少の判断力を伴っていく事がらの理解
    - d 文の筋の理解
    - e 文の主題の理解
  - 4 以上の各項に関する、つまずきと、その原因
- 「内容の理解」に必要な能力が次のように挙げられている。
- 書かれている事がらを正しく読みとる
- 要点を正しく読みとる

○文章の筋を正しく読みとる

○文の主題を読みとる

○書き手の立場や書かれている内容を考えながら批判的に読む

○漢字を読む

○語いを理解する

さらに、「○書かれている事がらを正しく読みとる」ために、

i ii iiiのように「内容の理解」するための能力が細分化されて示されている。

i 文をいくつかのまとまりとして読む

ii 書かれている話の筋が、順序だてて再生できる

iii 順序だてられたものを、関係的に正しく秩序づけて、求められている意味を導き出す

ここには、「正しく読みとる」という能力が身についているかどうかという二値的な学力観ではなく、「正しく読みとる」とはどのような学習活動ができることなのか、より細分化されて示されているところに本調査の学力観の特色がある。

以下、各学年および各設問に対するコメントを分析し、読解のどのようなつまずきに着目しているかを検討する。

二. 一 「書かれている事がらを正しく読みとる」つまず

きの分析 (①)~(⑤)の数字は稿者)

### 【第一学年】問(12)

1 話の筋を順序だてて再生できるように読んでいない。①

2 問いに答えるために、文のどこを読めばよいかがわからず。②

3 問いだけを読んで、文中にこれを位置づけることをしないで答えている。③

### 問(13)

1 文をひととおり読んで、そのあら筋をとらえることができない。②

2 この解答を求めるために、文のどこを読めばよいかが、的確につかまれている。②

3 三人の名まえが連記してあることから、適当に答えている。③

4 三人の名が連記してあるところに印象が強く正当を妨げている。③

5 問だけを読んで、本文と関係なしに一読後の印象から適当に答えている。③

6 問のことばの「うまく、はしらなかつた」と文中の「くるくるとまわりはじめました」ということばとが、同一の内容を意味していることがわからないための混乱がありはしないか。④

### 問(14)

1 1節をばく然と読んでいて、その要点を問の方向にまと

めることができない。②

2 問と自分の生活経験とを結びつけるだけで、文中から解答を見いだそうとしていない。②

3 「いけの まん中」という、位置的な概念が抽象化されていない。④

### 【第三学年】問(3)

1 対話文の秩序づけという読解技術が身につけていない。①  
2 このことばが、だれのことばであるかということが秩序だてて読まれていない。①

3 だれとだれの対話であるかという秩序が、読みの途中で混乱してきた。①

4 ことばの表面だけを読んで、そのやりとりの間に流れているものを見失っている。③

5 この手がかりとなる対話の最後にある「あわてものの三ちやんだけにあるのさ……」から最初にもどって、対話者相互の位置づけをする手順を誤っている。③

6 文の主題を読みとって、全体からする部分の位置づけを誤っている。③

### 問(8)

1 対話の主題がつかまれている。①

2 主題と関連させながら、人物の位置づけができていない。③

3 問いに関連する部分を的確に押さえて読みこなしていない。②  
4 ことばと人物との秩序づけが、話の展開にそって的確に

とらえていない。③

5 対話と対話の間にある空間が対話と関連づけて解釈されていない。③

「書かれている事がらを正しく読みとる」について各設問のコメントを分類すると(稿者による)、次の①～④の観点が抽出された。

①「話の筋を順序だてて再生できるように読んでいない。」のように、「くするように読む」ことをしていないという技術に関する指摘。

②「問いに答えるために、文のどこを読めばよいのかがわからない。」という問いの理解不足について指摘しているもの。

③「問いだけを読んで、文中にこれを位置づけることをしないで答えている。」というように本文と問を関連づけていないという指摘。

④「問のことばの「うまくはしらなかつた」、と文中の「くるくる」とまわりはじめました」ということばとが、同一の内容を意味していることがわからないための混乱がありはしないか。」という語彙の理解不足および文脈の中での意味をとらえていない(こと)についての指摘。

### 二二「要点を正しく読みとる」つまずきの分析

#### 【第一学年】問(9)

1 ことばを的確に使いこなす能力に欠けている。つまり、ことばの一般化と具体化の学習指導の面に欠陥が認められる。①

2 どこまでを、ひとまとまりの語としてとらえるかの語意識(44)に欠けている。②

3 前後関係的に読みとる読書技術が未熟である。③

4 問に答えるために、文のどこと関係づけて読めばよいかの技術に欠けている。③

5 問と関係なしに、単なる読後の印象から答える傾向がある。③

### 問(10)

1 問に答えるためには、文中のどの部分を読めばよいかかわからない。②

2 どの部分を読めばよいかかわかつても、この一節を問に關係づけて、要約することができない。③

### 【第二学年】問(9)

・文脈に位置づけられない③

・確実にその意味をはあくしたかどうか吟味すべき④

### 問(10)

1 問の、「どんな ことを はなしあっていますか」が、だれとだれの話しあいかが、とらえられないまま答えている。④

2 問の観点からどこに着眼して、どのような方向に考えをまとめたらいかが、わかっていない。②

3 問に答えることと、読後の感想を述べることとが混同さ

れている。③

4 読後の最初の印象にひきずられて、それから脱却することができない。③

### 問(15)

1 文中のどこに位置づけが、的確に行われていない。③

2 語・句・文を相互関係的に読むことになれていない。③

3 文中の「らい年、また お目にかかりましょう」の一般的な、いわば「あらわれている意味」はわかつても、そこからひき出される具体的な意味、つまり文の指向する「かくされた意味」の読みとりかたになれていない。③

### 問(16)

・文中のどこに着眼するかが、的確におさえられていない②

・文に即して読むことになれていない⑤

### 【第三学年】問(5)

1 対話文の読みになれていない。⑤

2 論理的に筋をつかんでいく読解になれていない。⑤

3 対話中の、どこからどこまでを読めば問に答えられるかわからない。②

4 「あわてものの 三ちゃんだけにあるのさ……」が前後関係的に読まれていない。③

5 読後のばく然とした感じから答えている。③

### 問(6)

1 文が着実に読まれていない。①

- 2 対話における人物の位置づけが、正しく行われていない。③
- 3 だれとだれとの話のやりとりが、一つ一つおさえられていない。③

4 したがって、対話の中に、ただ1回しか顔を出していない、女の子の位置づけを誤っている。③

5 「あら、きのうの写生って、そんなものあるの。」に現れている。女性特有のことばの使いかたに対する感覚が、養われていない。④

6 地域的な条件が加わって、このような女性語に読みなれないことも考えられる。⑤

#### 問(7)

- 1 ことばの正しい位置づけが行われていない。③
  - 2 三人が何について論議しているかを見失っている。③
  - 3 「写生」についての語義が、一般抽象的にとられていて、具体的につかまれていない。③
  - 4 ことばを、語る主体の立場からとらえていくことになれていない。⑤
  - 5 語る主体の心理的な動きと、ことばとの関係を、「あらわされた意味」として、表面的、一般的にしかとらえていない。③
- 【第四学年】問(11)
- 1 部分的な読みにとらわれ、全体的な意味の上に立って、部分的な意味を考える正しい読解の技術に欠けている①。
  - 2 論理的な読みが不足している。①

3 推読の技術が不足している。①

#### 問(12)

- 1 問に関係のある主要語句をおさえることができない。③
- 2 関係語句を相互関連づけて、一つの意味を導き出すことができない。③
- 3 論理的な思考になれていない。⑤
- 4 本文を読まないで、問だけから、あるいは本文一読後のぼく然とした印象だけから答えている。③

#### 問(14)

- 1 問と本文とを関係的に読むことができない。①
- 2 問の答を導き出すために、本文のどこに着目したらよいかわからない。②
- 3 本文とは関係なしに、問からだけ答えている。③

#### 【第五学年】問(12)(13)

- 1 本文中、どが問に関係のある部分かがつかまれていない。②
- 2 どこを読めばよいか、わかったとしても、問と相関的に読まれていない。③
- 3 第3の15%のつまずきものは、問そのものがわかっていないし、論理的な思考にもなれていない。②⑤

#### 問(14)

- ・ 関係性におさえられ、(略)論理的な意味のつながりに着目していない③
- ・ 着実に文に即して読む訓練の不足が問を着実に読まない③

問(15)(16)

- 1 問に答えるために、文中のどこを読めばよいかがわかかっていない②

- 2 「それを」「そういうことを」が、どれに対応することはできるかが、関係的に読まれていない。③

問(17)

- ・前後関係的に読む能力なり、態度なりができていない③

【第六学年】問(11)

- 1 「平気でふみつける」が行動と結んで理解されていない。
- 2 文に即して答えることをしていない。③

問(16)

- ・問に当る②の語が、どれに対する語であるかを関係的に読みとっていない③

問(17)

- 1 第1の32%のつまりきは、2が1に対する関係を示す語であるという。文中におけるその語の位置づけを誤っている。③

- 2 第4の27%のつまりきは、34の関係が、正しく位置づけられて読まれていない。③

- 3 つまりきの59%に、共通することは、問いに対する主要語句がおさせられていない。①

- 4 主要語句、その他文の前後を関係的に読みとる能力に欠けている。③

5 論理的な思考に欠ける。①

「要点を正しく読みとる」について各設問のコメントを分類すると(稿者による)、①④に加え、「対話文の読みになれていない。」というような「慣れ」に関する指摘⑤としたが現れている。

二・三「文の主題を読みとる」つまりきの分析

文の主題を読みとるために、次の3つの能力が総合される必要があるとして解説がなされている。

- 1 書かれている事がらを正しく読みとる。
- 2 要点を正しく読みとる。
- 3 文章の筋を正しく速く読みとる。

【第一学年】問(15)

- 1 書かれている事がらが正しくつかまれていない。したがって、平素の生活経験にひきづられがちである。第3のつまりきにこれが見られる。①③

- 2 書かれている話を、順序だてて話すことができないとみられるふしがある。このことは、要点が正しく読みとられ、秩序づけられていないことによる。第3のつまりきにこれが見られる。①③

- 3 事がらが正しくつかまれ、要点が正しく秩序づけられて



いれば、文章の筋はおのずから整頓され、位置づけられてくるのであるが、この点にも指導上不備な点があるとみられる。③

4 主題を読みとるためには、以上の能力の上に立って、文の力点と関係づけ、ある程度の見とおしの力が必要であるが、第一のつまずきは、この見とおしの能力に欠けている。③

### 【第三学年】

1 対話文による主題の読みとりかたになれていない。⑤

2 第1の26%のつまずきは、話題の中心になっていること（主題）と、話題の資料としてひきあいに出されていることとの判別がついていない。①

3 第3の34%のつまずきは、話題になっていることと、話題の中心との混同である。大意と主題との判別がなされていない。①

### 【第四学年】問（20）

1 文中における部分的なまとまりと、それをふまえての全体的な見とおしとの間に混乱があり、それが秩序づけられていない。③

2 全体と部分との相関的な位置づけから、主題を導き出す見とおしの能力に欠けるところがある。③

### 【第五学年】

1 平素の学習指導と強く結びつくことであるが、文に即してひき出される意味と、読後の所感とが混同されている。

第1の19%のつまずきは、これに当たるものである。③

2 全体の見とおしの上に立って、部分的な意味の位置づけ、全体と部分との秩序づけという、読解の基本的な能力に欠けている。第4の28%のつまずきはそれに当たる。③

二、四「書き手の立場や書かれている内容を考えながら批判的に読む」つまずきの分析

### 【第二学年】問（13）

1 書き手の立場に立って、書かれている内容を考えながら読むことになれていない。⑤

2 文の読解は、すべて書き手の立場に立って読むことから出発する。つまり文に即して読むことであるが、この態度が弱い。これら74%のつまずきは、以上の1、2の原因によるものと考えられる。①

3 問の「きつねは どう おもって いますか」の立場を離れて答えていることが考えられる。文のどこに着眼するかがわかっていないものも含まれている。②

4 第2のつまずきの中には、文中の「さむい 北風が ふいて、野原の草や 花は、たいてい かれて しまいました」を、「からして しまいましたが」と読み誤ったものがあるとみられる。③

### 【第三学年】問（9）

1 つまずきの第2の16%は、問そのものに対する判断を誤

ついている。③

2 つまずきの第3の18%は、対話の人物の位置づけを誤っている。文に即して、秩序正しく読んでいない。①③

問(10)

1 話の筋の展開が的確につかまれていない。この対話で、「良ちゃん」が、どんな立場に立っているかの位置づけが正しく読まれていない。第1の39%のつまずきは、このためと思われる。①③

2 たとえ、その位置づけが行われたとしても、前後の関連から問いに答えるための判断を誤っている。③

3 第3の24%のつまずきも、だいたいにおいて、第1のつまずきと考えられるが、第1のつまずきからは、ほめられて、てれている姿が描かれ、第3のつまずきからは、人のわろさが描かれてくる。同じつまずきではあるが、前後の話のやりとりから、どのような人物像を描いているかということが第1と第3では異なっている。③

【第四学年】問(13)

1 本文を部分的に読んでいて、全体との関連において、部分を正しく位置づけることができない。③

2 この間に当る語に前後関連する主要語句を、全体の上に立っておさえることができる。④

3 本文の主題がつかまれておらず、したがって、主題との関連の上に立って、部分を正しく意味づけることができない。③④

問(15)

1 つまずきの第1の10%のものには、問のねらいからそれ、連想による原因が考えられる。つまり、ほんしょうがなる一むねがわくわくする一おちついて見ることができないといった一連の連想のたどりが考えられない。③

2 つまずきの第4の58%のものは、子ども達の一連の足どりが、全体的におさえられ、その上に立ってこの間を意味づけをしていない。子どもたちが、最初から町の中に入ったと思いつい込んで、そこからきたつまずきが見られる。したがって、文に表現されている地形的な移動がおさえられ、そこから判断することに欠けている。③

3 なお、このつまずきの中には、本文をおさえないで、問だけから解答しているものも含まれていると思われる。③

【第六学年】問(13)

1 つまずきの第2の20%のものは、文の筋を正しく読みとっていないか、あるいは、本文をまったく念頭においていないかである。文中のどの部分をとって考えるにしても、その部分は、いつも全体との関連において、はじめて意味をもつものである。この読解の基本的な能力に著しく欠けていることが見られるつまずきである。③

2 つまずきの第3の15%のものにも、上掲の原因が見られる。なおこのつまずきの中には、前後の事がらを正しく秩序づける「書かれている事がらを正しく読みとる」能力や、

「要点を正しく読みとる」能力の低いことも考えられる。①  
問(15)

・前後の関連的な読み ③

おわりに

『読解のつまずきとその指導(一)』における読解調査においてのつまずきの分析は、次の①～⑤の観点からなされていた。

①「話の筋を順序だてて再生できるように読んでいない。」のように、「～するように読む」ことをしていないという技術・技能に関する指摘。

②「問いに答えるために、文のどこを読めばよいのかがわからな  
い。」という問いの理解不足について指摘しているもの。

③「問いだけを読んで、文中にこれを位置づけることをしないで  
答えている。」というように本文と問を関連づけていないとい  
う指摘。

④「問のことばの「うまくはしらなかった」と文中の「くるくると  
まわりはじめました」ということばとが、同一の内容を意味し  
ていることがわからないための混乱がありはしないか。」という  
語彙の理解不足および文脈の中での意味をとらえていないこ  
とについての指摘。

⑤「対話文の読みになれていない。」というような「慣れ」に関す  
る指摘。

これらは、「内容の理解」のための能力として挙げられた、「○  
書かれている事がらを正しく読みとる」「○要点を正しく読みと  
る」「○文章の筋を正しく読みとる」「文の主題を読みとる」「○  
書き手の立場や書かれている内容を考えながら批判的に読む」  
能力の分析に共通して用いられた観点であるといえる。

誤答分析を行う際には、国語の学力をどのようにとらえるか  
という分析の観点が問われる。『読解のつまずきとその指導  
(一)』における分析の観点は、能力一つ一つをばらばらなものとし  
てとらえるのではなく、総体としてそれぞれの能力が関連し、  
有機的に働いていることをとらえるものである。

今後、他の学力調査におけるつまずきの分析の観点について  
も考察を加えたい。

注

※1拙稿『日本人の読み書き能力(1951)』の考察「早稲田大  
学大学院教育学研究科紀要 別冊 12(1)平成十六年

※2文部省『読解のつまずきとその指導(一)』博文堂出版株式  
会社 昭和三十一年

※3『日本人の読み書き能力調査』学校調査における問題構成  
は、「センテンス・パラグラフの理解 ・語の読み ・語の書き取  
り」。「中学校生徒の基礎学力」の問題構成は

「漢字を書く ・語の理解 ・漢語の意味の理解 ・文の理解、  
大意」であり、話す聞くことに関する問題はない。

(本論文は、北海道教育大学学長裁量経費による研究成果の一部である。)